

乳幼児への育成支援として新米や梨などを贈呈

10月14日(水)、当JAから秋田赤十字乳児院へ管内産の新米「あきたこまち」200キロと梨「秋泉」「あきづき」計20キロ、クッキー30袋を、女性部からは手作りしたタオルエプロンや布マスクなどの衛生用品を贈呈しました。同院の乳幼児への育成支援の一環で、今回で8回目です。

加藤貞吉専務は「地元の農産物を美味しく食べて、元気に大きく育つてく、ださい」と呼び掛け、子どもたちに農産物を手渡しました。「あきたこまち」の5キロ袋や梨を受け取った子どもたちは、満面の笑みで持ち運んだり、興味深く顔を近づけたりしていました。



子どもたちへ農産物を手渡す加藤専務

大豆刈り取り研修会

10月14日(水)、秋田地区大豆部会の刈り取り研修会が秋田市追分の圃場で行われました。大豆の収穫期を迎え、生産者ら約30名が産地情勢や需要動向、刈り取り作業や乾燥時の注意点などを学びました。

参加者は品質を維持して産地の評価を高めるために、適切な圃場管理と収穫方法を確かめました。ヤンマーアグリジャパン(株)からは、収穫前に点検すべきコンバインの箇所や新型コンバインの性能などの説明がありました。

長岡営農組合による刈り取り作業の実演も行われ、生産者は収穫適期や作業手順などについて意見を交わしました。



収穫前に注意点を確認する生産者

NEWS & TOPICS

秋田地区営農フェア

10月23日(金)と24日(土)、秋田地区営農フェアが雄和支店の敷地内で開催されました。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため分散して開いたもので、秋田地区の生産者を対象に、来年度の作付け計画の相談や秋田米新品種「秋系821」の試食、ダリア「NAMAHAGE」シリーズの展示などが行われました。

23日(金)の農政講演会では金田吉弘元秋田県立大学生物資源科学部長を講師に迎え、倒伏が多かった今年産米の生育を振り返りながら、高温条件下での米づくりの対策などを講演していただきました。24日(土)は農薬メーカー4社によって、薬剤の特長や効果的な使用方法が解説されました。

農機具展示会場には、県内初展示となる新型共同購入トラクターで中型クラスの「SL33L」を筆頭に最新の農機具が並び、生産者は担当者から興味深く説明を聞いたり、試乗したりしていました。



「秋系821」と「あきたこまち」を比較する生産者



「NAMAHAGEダリア」コーナー



最新型の農業機械が並んだ農機具展示場



今年産米を振り返りながら高温対策についてご講演いただきました



肥料・農薬コーナーで意見を交わす来場者